

井口地域で学んだことを誇りに活躍する子供たちの育成を目指して

1 はじめに

本校は旧井口小学校と旧井口中学校を統合して、令和3年に義務教育学校として1学年10名程度の小規模校として開校した。南砺市井口地域は、人口1,074人（令和6年4月1日現在）、富山県の西南部に位置し、南東にそびえる高清水連山の赤祖父山(1,028m)から発する水源と南砺山麓用水の供給により、稲作農業が盛んである。近年では、丹波黒大豆の収穫とその加工品の開発等にも取り組んでいる。

地域住民は、学校教育にとっても協力的であり、地域の方とのつながりを大切に活動を実施している。

2 活動の実際

全学年やチームごとに地域に関わる課題を設定し、課題解決を通して地域を深く知り、ふるさとに愛着をもって、ふるさとの未来について考えるようにする。

(1) ふるさと学習の推進

①第1・2学年 生活科「まちたんけん 井口のよさをしよう」

1・2年生は、井口地域のよさを知る町探検として、井口地域の3つの施設を調べた。地域から3つの施設を選び、温泉施設ゆーゆうランド・花椿、トナミロイヤルゴルフ倶楽部、赤祖父円筒分水槽を見学した。

子供は、ゆーゆうランド・花椿のよさを見付けようと、露天風呂やサウナ、地元の農産物販売などについて、施設の方からお話を聞いた。トナミロイヤルゴルフ倶楽部では、素晴らしいコースや練習場、室内の施設を見せていただいた。その近くにある赤祖父円筒分水槽も、市の担当課の方や地域の方から説明を聞いた。円筒分水槽は、昭和24年に近くにある赤祖父ため池からの水を通して、井口から各地区へ農業用水を均等に分配するために作られた。子供は、今も使っていることに驚いていた。



<露天風呂の見学>



<コースの見学>



<円筒分水槽の説明>

②第3・4学年 総合的な学習の時間

「発見！井口の宝～つばきともっとなかよくなろう～」

椿を栽培しているが、椿のことについて知らないことが多いので、詳しく調べる活動を取り入れた。子供が栽培している椿や他の種類の椿について調べ、まとめた。さらに、隣接する椿館の方に疑問に思ったことを尋ね、一人一人調べ活動に取り組んだ。

「発見！井口の宝 ～くろまめいじんになろう～」

地域で盛んに栽培されている黒豆について調べ始めた3・4年生は、黒豆栽培に詳しい地域の方から直接お話を聞き、質問したいと考えた。

調べても分からなかった畝の作り方や黒豆の特徴など、栽培の進め方について詳しく聞くことができ、黒豆栽培への意欲が高まった。



< 椿館での説明 >



< 黒豆の説明 >

③第5・6学年 総合的な学習の時間「井口のよさを知ろう」

5・6年生は、井口の地域のよさについて、自然と施設について調べた。井口地域の赤祖父山には、富山県の天然記念物に指定された「榎谷の天然福寿草自生地」がある。また、市の天然記念物に指定されている「丸山の大ユキバタツバキ」もある。地域づくり協議会の方に先導してもらい、井口地域の山を案内していただいた。

また、地域には大きなため池である赤祖父池や赤祖父円筒分水槽もある。その2つの施設についても、地域の方に説明をしていただいた。



< 赤祖父山での説明 >



< 赤祖父円筒分水槽 >



< 赤祖父池 >

(2) 地域に根差した活動の推進

①全学年 椿学習

今まで小学校と中学校で行っていた椿栽培について、学年の系統性を考え、1から9年生までつながるように全校での帯学習として整理した。

1年生は、11月に椿の実を拾い、隣接する椿館の職員から椿の種を苔に包んで発芽させる方法を教えてもらった。子供は、まず種を水につけてよい種を選定し、苔に包んでビニール袋に入れて、来年の5月ごろまで室内で育てている。2・3・5・6年生は、椿館の職員に鉢替えの方法を教えられ、それぞれ小さい鉢へ替えた。



<挿し木>

4年生は、挿し木という方法を椿館の職員に指導していただいた。丈夫な枝を切り、葉を3枚程度選んで半分に切り、水を吸いやすい土を入れた鉢で毎日水やりをして育てた。



<取り木>

7年生は、取り木という方法を椿館の職員に指導していただいた。この方法は、枝の途中の皮をむいて発根する薬を塗り、4か月後に切り取って鉢植えする方法である。この方法を教えてもらいながら、子供は自分で取り木した枝を鉢植えした。

②第5・6学年 椿の親善大使（東京都大島町との交流）

5・6年生は、椿で縁のある東京都大島町と井口村のころから交流を続けており、椿の親善大使として東京都大島町を訪問した。



<発表>

井口地域と伊豆大島との違いやそれぞれのよさをまとめ現地で発表したり、伊豆大島の自然を体験したりした。特産物である椿油の製造や椿染め等、貴重な体験をすることができた。



<椿油の製造>



<椿染め体験>

(3) 地域行事への参加

①行燈づくり（7月）

8月に行われる夏まつりにおいて、子供が制作した田楽行燈を飾っている。制作については、地域づくり協議会の方に教えていただいた。下絵は家庭で考えてきて、蠟引き・色塗りをして仕上げた。夏まつりでは、灯りが灯った行燈で、会場の雰囲気を盛り上げていた。



< 蠟引き >



< 色塗りの説明 >



< 色塗り >

②井口生涯学習フェスタ（11月）

5月に全校でサツマイモの苗を植え、毎日水やりをして育てた。10月に掘り起こしたサツマイモを、井口生涯学習フェスタで販売した。収穫したサツマイモの選別や袋詰め等は、環境美化委員会の子供が行った。当日は、地域の方やフェスタを訪れた方に積極的に声をかけ、販売をした。

また、5・6年生が活動しているアート部吹奏楽コースの演奏発表を行ったり、美術コースの絵画作を展示したりした。



< サツマイモ販売 >



< 美術コース >



< 吹奏楽コース >

③いのくち椿まつり（3月）

本校では、3月に井口地域で毎年行われている椿まつりに作品を出品している。椿まつりには、市内をはじめ県外からも、椿に興味のある方がたくさん訪れているまつりである。そのまつりでは、全校で栽培している椿の鉢を各自一つ選んで出品している。1年生の種から芽出しをしている袋や種から8年間育てた9年生の鉢まで展示している。さらに、今年度は1～6年生の前期課程の子供が、図画工作科で作った椿に関する作品を展示する。

また、椿まつりに参加する子供は、自分たちでデザインを考えて法被を制作し、それを着用して参加する。

この法被は、これからの地域の行事や学校の代表として着用できる場面で活用していく予定である。



<法被のデザイン>



<椿の鉢と作品>

3 終わりに

本校は、サツマイモ栽培での老人クラブの方との交流、朝の挨拶運動や学校周辺の草刈り、登校時の見守りなど、いろいろな場面で、地域の方の協力を得て活動することができている。また、1年生から9年生という年齢差がある中、縦割りグループをつくり、プランターでの花の栽培、学校農園の水やり、毎日の清掃活動に取り組み、学年の枠を超えて仲よく活動している。さらに、活動を通じて、高学年の子供が低学年の子供の世話を進んで行ったり、それぞれの学年に応じた声かけをしたりするなど、日常的に温かい人間関係が構築されている。小規模校であり、地域密着型の義務教育学校である本校の強みを生かし、これからも井口地域で学んだことを誇りに活躍する子供の育成に努めたい。



<朝の挨拶強調週間>



<サツマイモの苗植え>